

2023年FIA-F4選手権シリーズ  
HFDP参加選手レポート  
第1大会（第1戦/第2戦） 参戦レポート

5月3日（水祝）～4日（木祝）、富士スピードウェイ（静岡県）で2023年FIA-F4選手権シリーズ第1大会（第1戦、第2戦）が開催されました。HFDP(ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5 三井優介（2002年04月21日生まれ。21歳）、#6 野村勇斗（2005年11月12日生まれ。17歳）、#7 森山冬星（2003年1月10日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。#5 三井は2年目、#6 野村、#7 森山は1年目のFIA-F4フルシーズン参戦です。

**野村が第2戦で表彰台。三井はペナルティーで後退**

■公式予選（20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ

今シーズンも昨年同様年間登録参加台数が40台を超えたため、公式予選はA、Bの2組に分けて20分ずつの計時セッションを行い、A組、B組それぞれのベストタイムとセカンドベストタイムの順位で第1戦及び第2戦の左右スターティンググリッドを決める形式となりました。

レースウィークを迎えた富士スピードウェイは快晴となりました。

3日（水祝）午前7時50分、A組の公式予選セッションが始まり23台の車両が出走し、ルーキーの#6 野村が参加しました。#6 野村

は快調にタイムを記録し始めトップに立ちますが、セッションが進むにつれ他選手がタイムを縮めるのに対しタイム短縮が足りず、徐々に順位を落としてトップの#36 小林利徠斗選手から0秒343後れのA組3番手でセッションを終えました。



午前8時25分からスタートしたB組は22台でのアタックとなりました。セッションが始まるとまず#5 三井が快調に走り始め、トップに立つとタイヤが暖まるにつれ自己ベストタイムを更新してトップタイムを守り続けました。一方、#7 森山も#5 三井を追いかけて上位に食い込む好タイムを記録していきました。#5 三井は11周目に1分45秒526を記録してライバルを突き放し、トップタイムを1度も譲ることなくセッションを終えました。#7 森山は4番手でした。

2回の計時セッションの結果、路温温度が低かったA組で#36 小林利徠斗選手が記録したトップタイムがB組で#5 三井が記録したタイムを上回ったため、ポールポジションは#36 小林選手が獲得、三井は2番手スタートとなりました。以下、A組3番手の#6 野村が5番手スタート、B組4番手の#7 森山が8番手スタートと決まりました。第2戦も同じスターティンググリッドとなりました。

## 第1戦公式予選結果

予選B組1位 #5 三井 優介 1分45秒526 (2番手スタート)

予選A組3位 #6 野村 勇斗 1分45秒663 (5番手スタート)

予選B組4位 #7 森山 冬星 1分45秒946 (8番手スタート)

## 第2戦公式予選結果 (タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選B組1位 #5 三井 優介 1分45秒701 (2番手スタート)

予選A組3位 #6 野村 勇斗 1分45秒842 (5番手スタート)

予選B組4位 #7 森山 冬星 1分46秒053 (8番手スタート)

## ■第1戦決勝レース (14周) : 天候/晴れ 路面/ドライ



公式予選が終了した3日(水祝)午後2時10分、シリーズ第1戦のフォーメーションラップが始まりました。午後2時15分、スタート合図が下されるとポールポジションの#36 小林選手が好ダッシュ、2番手の#5 三井はわずかに遅れながらこれに続いて1コーナーへ進入しました。

#5 三井は1コーナーの脱出速度を上げるためアウト側からコーナーにアプローチしました。ところがイン側に飛び込んできた#35 中村仁選手がブレーキングでホイールをロックさせて止まりきれなくなり追突、#5 三井はスピンしてコースオフし、接触により車両が破損したため走行不能となってレースから脱落してしまいました。

これ以外にもオープニングラップではコース上で混乱があり、セーフティーカーが介入しました。この段階で#6 野村は3番手、#7 森山は5番手へ順位を上げていました。4周目からレースが再開され、3番手#6 野村は2番手の#62 佐藤樹選手に迫り、1コーナーアウト側からオーバーテイクにかかりましたが、イン側の#62 佐藤選手も引かず、接触して#6 野村はスピン、大きく順位を落としてピットへ戻り、レースからリタイアしました。



#6 野村と接触した2番手の#62 佐藤選手にはドライブスルーペナルティーが下されて後退、#7 森山は4番手に繰り上がり、3番手の#38 奥本隼士選手に迫って接近戦を仕掛けましたが、なかなか順位を入れ替えるには至りません。10周目の1コーナーでインに飛び込んだ#7 森山はようやく3番手へ進出、勢いに乗って2番手の#45 大宮賢人選手に迫りました。

12周目、ホームストレートでスリップストリームに入った#7 森山は1コーナーで#45 大宮選手を攻略して順位を入れ替え、そのまま突き放して間隔を開き15周を走りきってチェッカーフラッグを受けました。しかしレース中に走路外追い越しをしたとして

レース結果に 10 秒加算のペナルティーを受け、#7 森山の正式順位は 9 位となりました。

#### 【FIA-F4 選手権シリーズ第 1 戦・レース結果】

#7 森山 冬星 決勝 9 位 (27 分 40 秒 386 ベストタイム 1 分 46 秒 158)

#6 野村 勇斗 決勝リタイア (5 周 ベストタイム 2 分 13 秒 158)

#5 三井 優介 決勝リタイア (0 周)

(#7 は走路外追い越し違反により競技結果に 10 秒加算のペナルティーを受けた)

#### ■第 2 戦決勝レース (14 周) : 天候/晴れ 路面/ドライ



翌 5 月 4 日も朝から快晴となり、第 2 戦決勝のフォーメーションラップが午前 8 時 15 分に始まりました。2 番手ポジションの#5 三井はタイヤをウォームアップするためのウィービング中にスピンしましたが無事隊列に戻りスターティンググリッドに並ぶことができました。午前 8 時 20 分、スタート合図が切られ、#5 三井はポールポジションの#36 小林選手に続いて 1 コーナーへ飛び込みレースを始めました。

ところが後方集団がダンロップコーナーで接触しコース上に停車車両が生じたため第 1 戦に続きオープニングラップからセーフティーカーが介入しました。この時点で#5 三井は 2 番手、#6 野村は 1 つポジションを上げて 4 番手、#7 森山は 1 つポジションを下げて 9 番手につけていました。



車両回収が終了し、レースは 5 周終了時に再開されました。

#5 三井は前を行く#36 小林選手との間隔を詰め、うまくリスタートのタイミングを合わせて加速しました。しかしスタートラインを通過するまでは隊列の順序を守らなければならない規則であるにもかかわらず、スタートライン手前で#36 小林選手に追いつきオーバーテイクしてしまったため、反則スタートの判定を受けることとなりました。



第 1 戦のオープニングラップでレースをリタイアした#5 三井のタイヤはまだ消耗が進んでおらず#36 小林選手に対しては有利な状況だったこともあり、先頭に抜け出した#5 三井は#36 小林選手との間隔をじりじりと開いていきました。一方、3 番手の#6 野村は#5 三井にかわされた#36 小林選手がオーバー

ランしたすきに 2 番手へ抜け出しましたが、後方から#35 中村選手に迫られ、8 周目にオーバーテイクを許して見かけ上 3 番手へ後退しました。

後方#7 森山は 9 番手からレースを再開し、7 周目に 1 つ、8 周目に 1 つ、11 周目に 1 つポジションを上げ 6 番手へ進出しました。#5 三井はトップを譲らず 14 周を走りきってチェッカーフラッグを受けましたが、反則スタートによりレース結果に 40 秒を加算するペナルティーが下され事実上の順位は大きく後退してしまいました。#5 三井の後退により#6 野村が 2 位、



#7 森山が5位へ順位を繰り上げレースを終えました。#5 三井は28位で完走扱いとなりました。

**【FIA-F4選手権シリーズ第2戦・レース結果】**

#6 野村 勇斗選手 決勝2位 (30分10秒736 ベストタイム 1分45秒397)

#7 森山 冬星選手 決勝5位 (30分16秒443 ベストタイム 1分45秒784)

#5 三井 優介選手 決勝28位 (30分47秒623 ベストタイム 1分45秒368)

(#5は反則スタートにより競技結果に40秒加算のペナルティーを受けた)

**■2023FIA-F4選手権シリーズポイントドライバーランキング (2023シーズン第2戦終了時点)**

4番手 #6 野村 勇斗 18点

8番手 #7 森山 冬星 12点

(1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点)

**■2023FIA-F4選手権シリーズポイントチームランキング (2023シーズン第2戦終了時点)**

2番手 HFDP 20点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP RACING 三井 優介



予選は自分の中では最善の結果を尽くしたと思います。A組トップとは差はありましたけどB組の方が路温温度が高くなってタイムが出にくかったことを考慮すると、負けていたとは思いません。でも第1戦の決勝レースは最悪な結果に終わりました。失敗とまでは言わないけれど、スタートがあまりうまくいかなかったのに対し、小林選手はうまく加速して、なんとかついていけないといけないと思って、後続をミラー

で確認して、これは入って来られない距離だなと判断して、前に追いつくためにアウト側に振ったんです。そうしたら中村選手がブレーキング遅らせて入ってきてホイールロックさせて当たってきて、スピンして終わってしまいました。結果的にタイヤを温存できたこともあり、第2戦は優勝あるのみだと思って気持ちを切り替えて臨みました。オープニングラップは、第1戦の反省から、後ろから入れられないようにしてうまく抜けて、1周して「さあ抜きにかかろう」と思ったところでセーフティーカーが入ってしまい、それならリスタート明けで抜こうと、最終コーナーをうまく立ち上がってスリップに入って、「これは行ける」と思ったんですが、スタートラインまでは抜いてはいけないということが頭から抜け落ちていて、追い抜いてしまいました。その後のペースは良く、タイヤの使い方もすごくうまく行ったんですけど、結果的にペナルティーを受けてしまいました。第1戦のリタイアは仕方なかったとしても、第2戦は完全に自分のミスなので、第1戦が終わった後でクルマを直していただいたメカニックに申し訳ないですし、チームの皆さんの顔に泥を塗る形になってしまってすごく反省しています。



●ドライバーズコメント：#6 HFDP RACING 野村 勇斗



前日の練習走行で、新品タイヤを使ったときには調子良かったんですけど、予選ではフィーリングが若干違ってしまい、それにドライビングを合わせきれませんでした。絶対にポールを取ろうと思って意気込んで気合が入りすぎて、ちょっと力んだ部分もあったかもしれません。それで5番手スタートになったんですけど、第1戦では優勝を目指して最初

からプッシュしてどんどん上げていこうと思いました。1周目、前で接触があったりもして3番手に上がって、マシンのフィーリングも良かったんですが、セーフティーカー明けのリスタートで、自分の思いと相手の思いがちょっと合わなくて、接触してレースをダメにしてしまい、すごく反省しています。



第2戦は、やはり5番手スタートで「優勝も狙える位置だ、絶対行くぞ」と思ってスタートして、うまくスタートできて4番手に上がれ、セーフティーカー明けのリスタートもうまく行って2台抜いて2番手に上がって、このまま行こうと思ったんですけど、どうも自分が思っていたようなグリップのバランスではなくて、合わせるのがちょっと難しくなりペースが上げきれませんでした。後半、どんどんきつくなって、なんとか表彰台には登れたので良かったんですが、結構苦しいレースでした。

●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 森山 冬星



予選はセッティングを外したり位置取りが悪かったりして、あの順位に沈んでしまいました。位置取りについては、後ろに結構連なっていたのでその間に入るのは難しいかなと判断したんですけど、もうちょっと駆け引きしてうまく後に下がったら良かったなと反省しています。テスト走行まではトップも狙えるペースだったのに、予選がほんとにダメだったので、自分でちゃんと流れを作らないとダメだなと

痛感しました。

第1戦の決勝は、最初からガンガン行きたかったんですけど、自分の性格上慎重になって前の様子を見過ぎてしまいました。今回に限っては結果的にはそれが良かったんですが、もっとガンガン行けるように頑張らないとダメだと思います。

第2戦は、ちょっと課題が多いレースになってしまいました。自分的には序盤から行きたかったんですが、タイヤの使い方がまだうまくないので全然温まらず、攻めたらホイールがロックしてぶつかるという感触だったので抜きに行けませんでした。たとえポールポジションからスタートしてたとしても、今回のように序盤にペースが上げられなかったら順位を落としてしまうので、大きな課題になりました。どうやったらそれを乗り越えられるか、シミュレーターでも練習走行でもしっかり意識しながら練習を積み、次のレースでは序盤からどんどんプッシュできるようにしたいです。

